

20年目の葉山

村山市立葉山中学校
学校だより
第19号
令和6年1月24日

同窓会・校歌・校章を紹介します。

校長 富塚 義幸

私事になりますが、先日、「還暦祝い（中学校）同窓会」を企画する会合に出席しました。来年度、私は60歳になります。話し合いでは、「集合写真を撮る際の赤いマフラータオルはアントニオ猪木みたいだ」、「校章をマフラータオルに入れよう」、「統合したので校歌が新しくなり今の校歌は歌えない」、「私たちが知っている古い校歌を会の中で歌おう」等、思い出話も含め話題が尽きませんでした。“同窓”とは同じ学校に学んだことを意味します。本校の同窓会は『村山市立葉山中学校同窓会』と称し、本会員の葉山中学校の卒業生に加え、特別会員（葉山中学校に勤務した職員）で組織されます。令和4年度までの卒業生は1,575名です。現3年生は、卒業を機に同窓会に入会します。同級生という横のつながりだけでなく、同窓生という縦のつながりができるのです。そして、**全同窓生が歌うことができるのが校歌**です。この機会に、聴いた方から「素敵ですね」と褒められることの多い本校校歌について、作詞者：遠藤マサさんと作曲者：村川千秋さんの校歌に込めた思いと共に紹介します。※創立10周年記念誌より抜粋

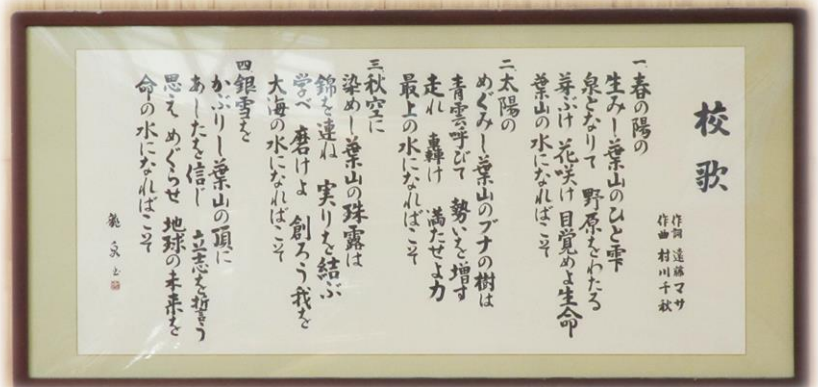
「校歌十歳、葉山のほほえみ」 遠藤マサさん

宇宙水、細胞水などの言葉の魅力から“水”をテーマに描いたり、創ったり、時には「水のようにになりたい」「水々しく生きるぞ!」とひとり言を繰り返してきました。青い地球が月面に沈みゆく映像に出会えたとき、感動しながら校歌に込めた“生命の水”への確信を得ました。この詩を歌う人は“幸せと平和へ導く力を持つ”と信じて止みません。

「学校が一つにまとまるには、校歌が一番」 村川千秋さん

葉山中学校の校歌では、誰もができるだけ無理をしないで歌えるように、ピッチや高さを二つに分け、合唱にしました。また、校歌にはあまり使われない「和音」を一か所だけ入れたので、風変わりな雰囲気を感じられるかもしれませんが、歌詞にもちょうど合いますし、生徒の皆さんが上手に歌ってくれていたのも、よかったです。ところで、葉山中学校は「合唱の葉山」といわれているそうですが、「合唱」というのは、みんなで声を合わせて歌う、楽しみとして歌うことが大事なのです。なぜなら、歌を一緒に歌うことで、気持ちが一つになれるのですから。だから、上手下手関係なく、何でもいいからまずは楽しく歌ってみましょう。ぜひ、葉山中学校の皆さんには、歌うことを楽しんでほしいと思います。

校歌と同じように大切な校章についても紹介します。葉山の「ハ」をモチーフに校訓である「友愛」「探求」「飛翔」の輪を表し、さらに、葉山の生命（葉山の源）葉山の力（最上の流れ）、葉山の未来（大海への出発）の意味が込められています。「中」の字は、統合した葉山中・戸沢中・大高根中の三つの峰から成り立ち、同時に「やまばと」が力強く飛翔する勇姿を表しています。



1月のアルバム ～ 決意を新たに前に進みます！～

目標（＝自分の頑張りたいこと）をはっきりさせ、どんな3学期にしたいのか？どんな年にしたいのか？具体的に考えたことを、周りの人に聞いてもらいましょう。周りの人に言うと、「言ったからには頑張ろう！」とやる気になります。決意固めができます。また、周りの人から励ましてもらえます。できたときには一緒に喜んでもらえます。



『校内書き初め』



『進路激励会』



『県アンサンブルコンテスト壮行式』

『地区英語暗唱大会』

